

授業カブラッシュアップ®研修会Ⅳ・Ⅴ



学習指導要領の趣旨や、学習到達度状況調査(CRT)の結果を踏まえ、授業における言語活動の充実に視点を置いた学習活動や、学習評価の在り方等を改善するための提案授業・講義・演習を実施しました。

今回は、5つの研修会のうち小学校体育科と小学校理科の研修会の様子を紹介します。

小学校 体育科

できる喜びを実感し意欲的に運動に取り組む子どもが育つ授業

(1)提案授業

「ソフトバレーボール」5年

授業者：一関市立一関小学校 教諭 菊池 勝彦

★運動量の確保のための工夫

- ・準備や移動などの時間、教師による一斉指導の時間をできるだけ減らすことにより、「運動学習」の時間を60%確保することができました。

★基礎技能習得のための練習のゲーム化

- ・単元を通して、単位時間のはじめに基礎技能の習得の時間を位置付けました。パスを連続で何回続けられるかをゲーム化することにより、プレーに集中させ、上達を実感させることができました。

★課題を明確にしたゲームの設定

- ・第2時～4時は「つなぐこと」、第5時～7時は「攻めること」を課題としたゲームを行い、戦術の定着を図りました。

★場づくりや段階的な指導の工夫

- ・連係プレーによる攻撃や、それに対する守備ができるように、児童の実態に合わせてルール(ネットの高さ・コート(広さ)・ボールの種類等)をしました。

(2)助言

講師：県南教育事務所

指導主事兼保健体育主事 千葉 勝博

- ・「思考・判断」の力を育成するには、思考する内容と方法を明確にし、例を示したり思考したものを共有したりすることが大切であることを確認しました。

(3)講義

「できる喜びを実感し意欲的に運動に取り組む子供が育つ授業」

講師：岩手県教育委員会スポーツ健康課

主任指導主事兼主任保健体育主事 多田 敢

- ・「できる」「わかる」「かかわる」を視点とした授業づくりについて確認しました。また、体育科の学習過程は他教科と変わらないことを、算数科の学習過程と比較しながら確認しました。



小学校 理科

実感を伴った理解を目指した理科授業の在り方

(1)提案授業

「水溶液の性質とはたらき」6年

授業者：奥州市立姉妹小学校 教諭 大森 恒和

★効果的な実験・観察のための指導の工夫

- ・物質特有の性質を利用して物質名を特定する化学実験の導入として、「気体に火を近づける」→「気体に石灰水を通す」の順番性を大切にしました。

★主体的な問題解決のための工夫

- ・「蒸発させても何も残らなかった水溶液にはどのようなものが溶けているか」を予想し、それを確かめるための方法や実験の手順をグループ学習で確認させました。
- ・実験結果から、泡は二酸化炭素であると確認した後、本時の課題に対するまとめを自分の言葉で書かせました。

★実際の自然や生活と結びつけるための工夫

- ・終末で、水に二酸化炭素を溶かす演示実験を見せることによって、本時の結論を納得させることができました。普段飲んでいる炭酸水に対する理解を深め、児童の日常生活と科学事象を結びつけることができました。



(2)助言

講師：県南教育事務所 指導主事 中軽米 央子

- ・理科の学習は「児童の既にもっている自然についての素朴な見方や考え方を、問題解決活動を通して科学的なものに変容させていく営みである」という認識を踏まえて、単元を通して課題意識をもたせ、それを主体的に追究させていくことの重要性を確認しました。

(3)講義 「実感を伴った理解を目指して」

講師：県南教育事務所 指導主事 中軽米 央子

- ・県学調の結果から分析される県内の理科教育の現状を基にして、実感を伴った理解につながる授業づくりの実際について、その手段や手だてを確認しました。また、実感を伴った理解の捉え(体得・習得・納得)についても、改めて確認しました。